

第328号

HYOGOニュース

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38
TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256
E-mail info@hamt.or.jp

編集委員
鳥居良貴 / 増井 裕 / 小原 望 / 山崎美佳
小松敏也 / 松田武史 / 真田浩一 / 藤本宏巳

臨床検査情報センター
URL <http://www.hamt.or.jp>

今月の内容

- 平成28年度 臨時総会および講演会 開催 1~2
- 子宮頸がん検診促進キャンペーン 3
- 《行事予定表》 4~5
- 《会員グルメ情報》・長寿の作法・《求人情報》 6~7

平成28年度 臨時総会および講演会 開催

ー平成29年度事業計画・予算等が承認されましたー

平成29年3月25日 兵臨技研修センターに於いて臨時総会が開催され、審議の結果すべての議案が承認されました。

<審議経過>

総会議長に駒井隆夫会員（県立尼崎総合医療センター）が選出され、書記として松下柚香会員（兵庫医科大学病院）を任命し、総会資格審査では、当日出席37名、委任状出席776名、議決権行使書提出者830名、出席した会員数1,643名（出席率72.3%）で会員の過半数の出席を得て総会が成立し、議案審議が開始されました。

<平成29年度 事業計画（案）（第1号議案）>

公益社団法人として公益事業に重点を置いた事業展開を行います。臨床検査技師の業務は現在、検体採取、検査の実施・報告および検査説明までがその範疇となっています。兵庫県臨床検査技師会は、臨床検査を通して県民に良質な医療を提供することをモットーとしています。そのためには、一層の学術、技術レベルの向上を図り、臨床検査に関する情報はわかりやすく県民に広報し、更には臨床検査技師が新たなものに取り組むチャレンジ精神を培う環境が必要です。

超高齢化社会の到来により、疾病構造の変化が見られるとともに、医療体制も在宅医療への移行や病院の機能分化が図られようとしています。その中で現在の職種の領域を超えたチーム医療が必要との声も聴かれます。この医療改革の中、各種コメディカルは業務を取り合っている状態が見られます。このような中では患者さんにより良い医療を提供するために病態の理解が必要です。また、当会は日臨技の事業活動に符合し、これらの変革に対応していく必要があります。

平成29年度の事業計画・予算については、基本的に平成28年度の事業を継承するものです。会員の学術の向上は必須条件です。昨年度は全国学会を開催したため県学会を開催いたしましたが、今年度は多くの会員が参加する県学会を開催したいと考えています。

事業は3つの公益目的事業（衛生思想向上事業、精度管理事業、学術事業）と2つの共益事業（会員資質向上事業、広報事業）、法人事務局事業に大別し、それぞれの事業計画案及び予算案を提示します。

- 事業推進局は公益目的事業の3事業を行う。
 1. 公衆衛生の向上及び臨床検査に関する普及啓発を行う。
 2. 臨床検査の標準化の推進、並びに精度管理調査及び指導を行う。
 3. 学術及び技術の振興を行う。
- 組織活動局は共益事業の2事業を行う。

1. 会員の交流、連携強化のため会員資質向上事業活動を行う。
 2. 県民・会員への情報提供を図り、活動の推進を促す。
- 法人事務局は、総務部と経理部からなり、会員管理及び法人に関する所掌事務と会計事務を行う。

<平成29年度 事業予算(案)およびその他の付随事項(第2号議案)>

総予算2,275万8千円(前年度比2万6千円減)で承認されました。

当会が、公益社団法人の監督官庁である兵庫県に「平成29年度資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類」を提出することも承認されました。

臨時総会に続いて、「兵庫県下ISO取得5病院によるISO15189の取り組み ～取得病院に聞く～」と題して各病院の先生方に講演していただきました。

1) ISO取得までの道のり(取り組みとポイント)

八杉 秀美 先生(県立がんセンター)

2) ISO拡大審査を受けて～病理検査～

中村 純子 先生(兵庫医科大学病院)

3) ISOを取得して「血液検査室の取り組み」

菊間 知恵 先生(神戸大学医学部附属病院)

4) 当院での準備段階、審査時における品質管理者の関わりについて

入野 博文 先生(県立尼崎総合医療センター)

5) ISO15189 取得 4年目を迎えて

佐野 隆宏 先生(姫路医療センター)

2025年には、4人に1人が75歳以上という超高齢社会が到来することが予想され、少子高齢化の中で医師不足、病院や診療所中心の医療から在宅中心の医療、病院の機能分化の加速、認知症の増加など疾病の変化が考えられています。検査説明、病棟検査技師、新規診断法への対応や開発など今後の臨床検査の進む方向を考えた時、より深い病態の理解は必須だと思います。このように、臨床検査技師の仕事は医療体制の変化にともない仕事の内容も多岐にわたると考えられます。一人一人が患者さんにとってよりよい医療を提供するにはどうすればよいかを考え行動し、積極的に新たな分野にChallengeしなければなりません。

本年も「臨床検査を通して県民に良質な医療を提供する」をモットーに活動いたしますので、兵庫県をはじめ行政機関、県医師会、各医療関係団体、賛助会員の方々には引き続きご支援いただき、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、会員の皆様には、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

(HYOGO JOURNAL Vol.38 No.1 巻頭言 会長挨拶 一部抜粋)

<臨時総会>



駒井会員

<講演会>



子宮頸がん検診促進キャンペーン

『子宮の日』 LOVE49 キャンペーン in KOBE 2017 開催される



4月9日は「子宮頸がんを予防する日：子宮の日」として記念日登録されており、この日を中心に日本全国で一斉に子宮頸がん検診促進活動である「LOVE49キャンペーン」が毎年行われています。兵庫県でも4月8日（土）と9日（日）の2日間、標記キャンペーンが開催され、当会も参画しました。

4月8日（土）は、大丸芦屋店、大丸神戸店、三ノ宮地下鉄駅構内の3ヶ所にスタッフ一同（兵庫県臨床検査技師会、兵庫県細胞検査士会、神戸常盤大学の学生）が分かれて子宮頸がん啓発リーフレット等を配布しました。また実際に顕微鏡でがん細胞を見ていただき子宮がんの説明を行う体験コーナー、神戸常盤大学「神戸常盤LOVE49サポーターズ」によるパネル展示、女子弦楽アンサンブル Bloom Quartet & Ensemble および Epicus フルートデュオ&アンサンブルによるクラシックミニコンサートが行われました。

またキャンペーンの準備の合間に、神戸常盤大学の学生に向けてロシュ主催の子宮頸がんに関するランチョンセミナーが行われました。



4月10日（日）は神戸市須磨区の大丸須磨店・須磨パティオにて子宮頸がん啓発チラシ等の配布、子宮頸がん啓発に関するパネルの展示や神戸常盤大学生による発表、顕微鏡での子宮頸がん細胞標本の観察コーナー、にこいちによるミニコンサート、クラシックミニコンサート、産婦人科専門医による子宮頸がんトークショーが開催されました。当会は、子宮頸がんについての正しい知識の普及と検診のイメージアップを目的として啓発ポスターの展示を行いました。この日は風が強かったですが、天候に恵まれたので、男女問わず、たくさんの方に来ていただき、神戸常盤大学生による発表では参加者はうなずきながら熱心に聞き入っていました。ミニコンサートには会場で立って聴いておられた方、買い物途中に足を止めて聴いてくださった方も多かったです。多くの方々にご参加いただき、子宮頸がんや検診について啓発活動ができ、“大切な人に、大切なこと”を伝えていただけたと思います。





会員グルメ情報

数珠つなぎ

[3]



店の外観



水阪 隆会員（加古川中央市民病院）

当院の所在地である加古川市は『かつめし』がソウルフードとして有名です。加古川かつめしが誕生したのは昭和20年代とされており、誕生した経緯は「忙しい仕事の合間にまかないで作ったのが出された」、「客が皿にご飯と牛かつを切ってひとつにしてタレをかけて出してくれと頼んだ」などいろいろな説があります。加古川観光協会の「かつめしマップ」によると加古川周辺には90件近くのかつめしを提供しているお店があります。今回ご紹介するのはその中でも人気のある「かつめし いろは一ず」というお店です。

かつめしは加古川にある精肉店「肉のいろは」が経営する「いろは食堂」の創業者が開発したとされており、「かつめし いろは一ず」はその「肉のいろは」直営のかつめし専門店です。つまり、元祖かつめしの味を引き継ぐかつめし専門店なのです。

お店の場所はJR加古川駅南口からベルデモール商店街を南へ（左手にヤマトヤシキ）2～3分ほど歩くと左手にみえてきます。店頭には縁起物、験担ぎの目的で小さな「かつめし神社」が設置されており、受験前にお参りするのにも良いで

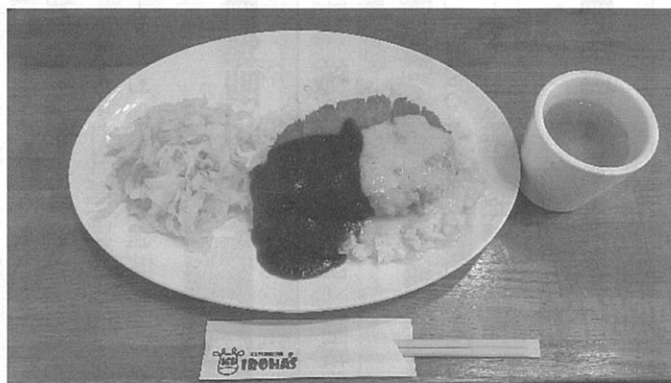
しょう。

店内は木の温もりを感じさせるお洒落な雰囲気、ウエスタンスタイルの服装で統一されたスタッフの方々が丁寧に対応してくれます。かつはビーフが一般的ですが、その他にポーク、チキンなどがあり、ソースも赤（デミグラスソース）、白（ホワイトソース）、緑（ほうれん草とバジルを使用したスパイシーソース）の3種類あります。どのソースにするか決めきれない場合は2種類のソースをかけてもらえる「ハーフ」（3種類の場合は「トリプル」）で注文することも可能で、色々な味のかつめしを楽しむことができます。もちろん1種類のお好きなソースで召し上がるのもおすすめです。

認定・専門資格の受験などの験担ぎに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



店頭の「かつめし神社」



ビーフかつめし（赤と白のハーフ）

長寿の作法

兵庫県立淡路医療センター
検査技師長 真田浩一さん



細胞診でがんを早期発見

2015年10月から神戸新聞の月曜日の夕刊で連載されている「長寿の作法」は、健康寿命を延ばすためのアイデアを医療関係者や健康法を指導されている方など様々な場面で活躍されている方々に提案していただく内容です。この連載で2017年3月27日夕刊に真田副会長が取材を受け、「細胞診でがんを早期発見」について掲載されました。

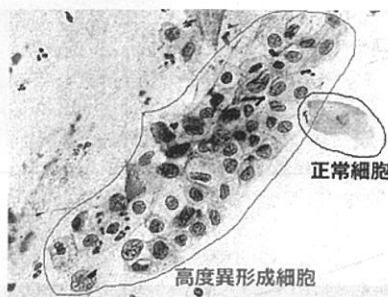
臨床検査技師である私は、機械で測る検査をしますが、それだけではありません。これまで、顕微鏡で細胞を見てがなかなか判断する「細胞診」と言う分野に長く携わってきました。客観的な数値ではなく、文字による主観的な報告のため、経験や知識の蓄積が特に重要な仕事です。

正常な細胞が何らかの原因により、無秩序にどんどん増えてしまふ状態がいわゆる「がん」です。正常な細胞は同じような顔つきできれいに並び、規則性があります。異常が起ると大ききや形に

差が出てきます。明らかにおかしくなっても、放置すると危ない「前がん細胞」も存在します。また、細胞も人間と同じで、悪人顔をした善人や、善人顔をした悪人がいます。私たちの仕事は、医師の診断に先立ち、経験と知識によってこれらの細胞をふるい分けすることです。がんは早く見つければ治る病気になってきたので、早期発見が非常に大切で。

細胞診は、人間ドックや市町村で行われる子宮頸がんや肺がんの検診などで行われます。こすり取った細胞やたんに含まれる細胞を用いるので、体への負担が少なくてすみます。自覚症状がなくても定期的に受けましょう。

検診以外では、病院で行われる尿検査も重要です。尿には体内からはがれた細胞が含まれるため、自覚症状がなくても膀胱がんなどが見つかる



子宮頸部の細胞。赤線で囲まれた部分の細胞は、黒線で囲まれた細胞に比べ核の占める割合が高い。形もふぞろいで放置するとがんになる「前がん細胞」の可能性がある(兵庫県立淡路医療センター提供)

さなだこういち 1961年、愛知県一宮市生まれ。国際医学総合技術学院(現・岐阜医療科学大)卒。兵庫県立西宮病院などを経て2016年から現職。日本臨床細胞学会認定の細胞検査士。神戸市中央区在住。

臨床検査技師

医師の指示で検査を行う国家資格。血液や尿など人から採った材料を機械で測る「検体検査」、心電図などで患者から直接情報を集める「生体検査」のほか、顕微鏡で細胞を観察する「形態検査」がある。

ています。お酒を飲むなら赤ワインがおすすめです。

細胞診ではありませんが、採血も臨床検査技師の仕事の一つです。血管は年を取るとだんだん弾力を失うのですが、農業や漁業に携わっている人は都会の人に比べて血管

が若々しく感じます。健康を保つには、普段から体を動かすことが大切だと採血業務から教えられている気がします。

（聞き手・森 信弘、協力
・兵庫県予防医学協会）

真田さんが勧める 三つの作法

- 一、自覚症状がなくても定期的に人間ドックや検診を
- 一、規則正しい生活や「腹八分目」で長寿遺伝子活性化
- 一、体を動かして血管の老化防止

2017年3月27日
神戸新聞 夕刊

求人情報

*詳細は求人先に各自お問い合わせください。

●地方独立行政法人 明石市立市民病院

交 通：JR「明石」・山陽電鉄「明石」 徒歩約15分
採用条件：臨時職員・アルバイト職員
業務内容：検査業務全般
連 絡 先：078-912-2323（臨床検査課 足立）

●フクダライフテック兵庫株式会社

交 通：ポートライナー「医療センター」下車 徒歩7分
採用条件：臨時職員（9：00～18：00内 週3日程度）
業務内容：臨床データの再生等
連 絡 先：078-302-5599（杉山）